不知火物語

へ 13
3162
29

門へ13
寄3162
巻29

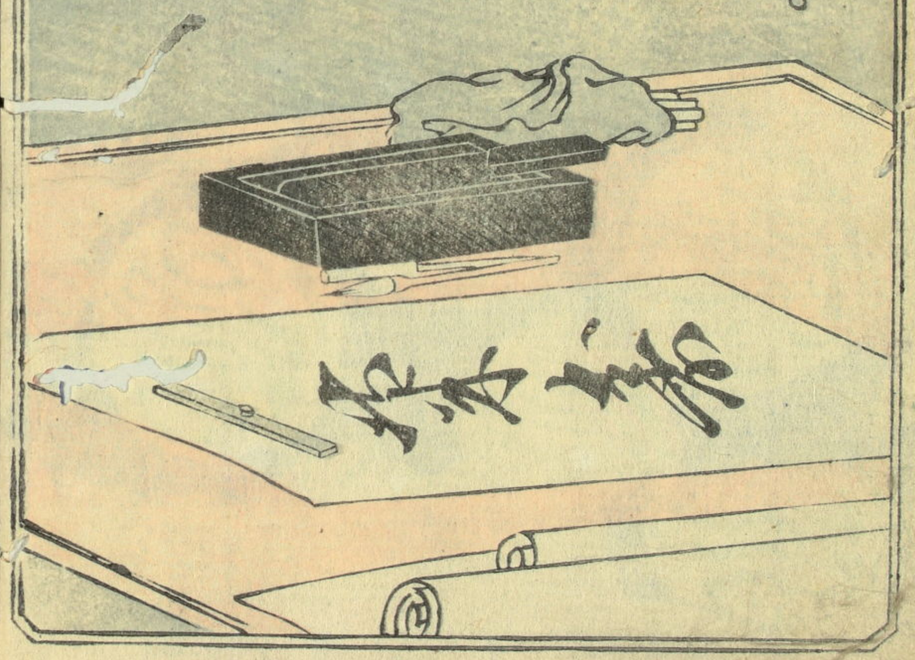
昭和九年
十月二日
求

不知火

譚

五十六編上

種彦さく
よしいく志
辰のはる



久々の御約束の山田河内の五人斬も笠松の枝曲り成に申訳ばかりに済し追く延引せし錦が岳のさんまりも此にくやつと次編へ架て解く其帯再巡り會大誥ハ作者ごとにいつと知ら縫譚伏線をさへ見失ひ尾を結ぶぬ絲の如く後から破綻び隠しく瑕疵の見ゆるはも御承知ぞ長物語に飽もせずまにこゝせぬに忝なさ當るをよろこぶ矢の字結び弓もむき方弥御具負厚きを地合の博多織御見物の山は切れぬやうにと

慶應四
戊辰春
發兌

柳亭種彦 祈るに

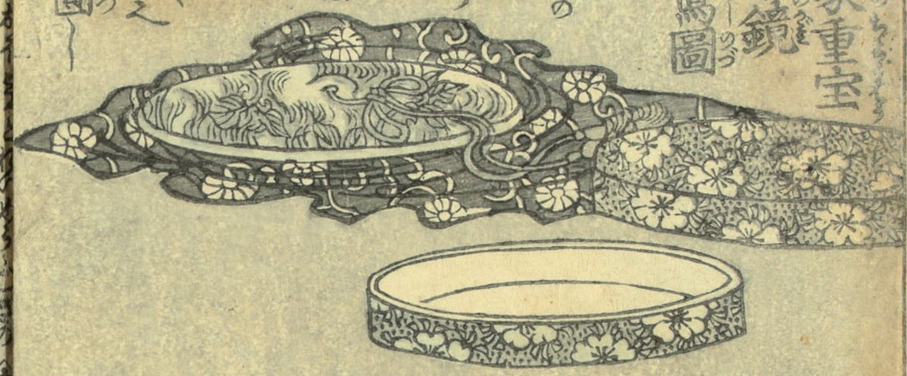
鳥山豊後保忠

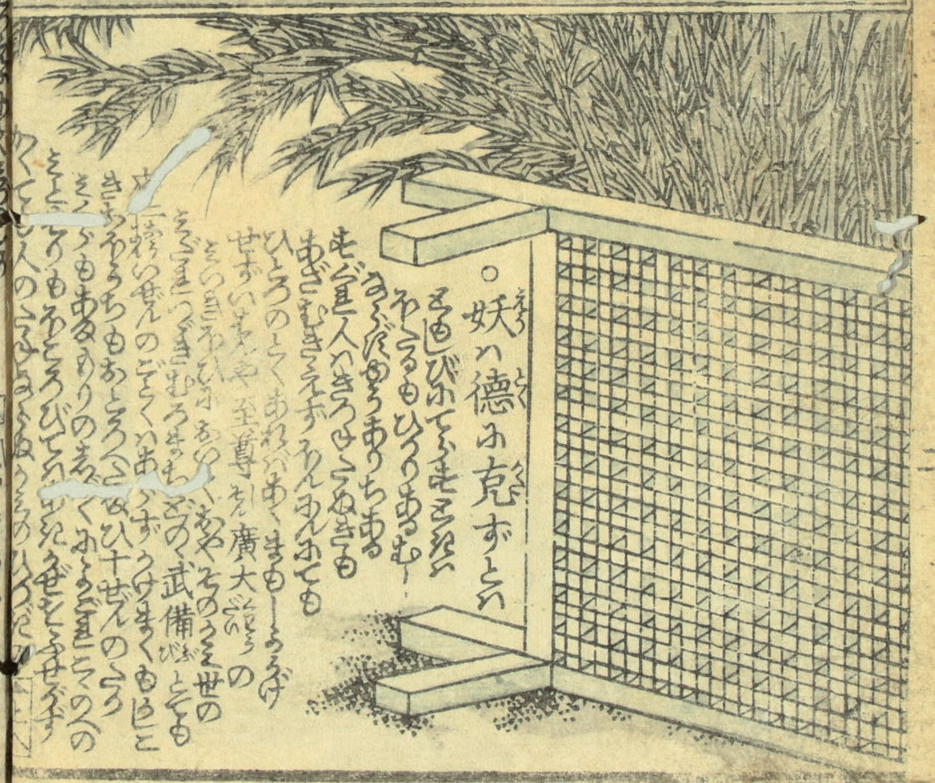
小女郎蜘蛛

三原要人女児阿古女

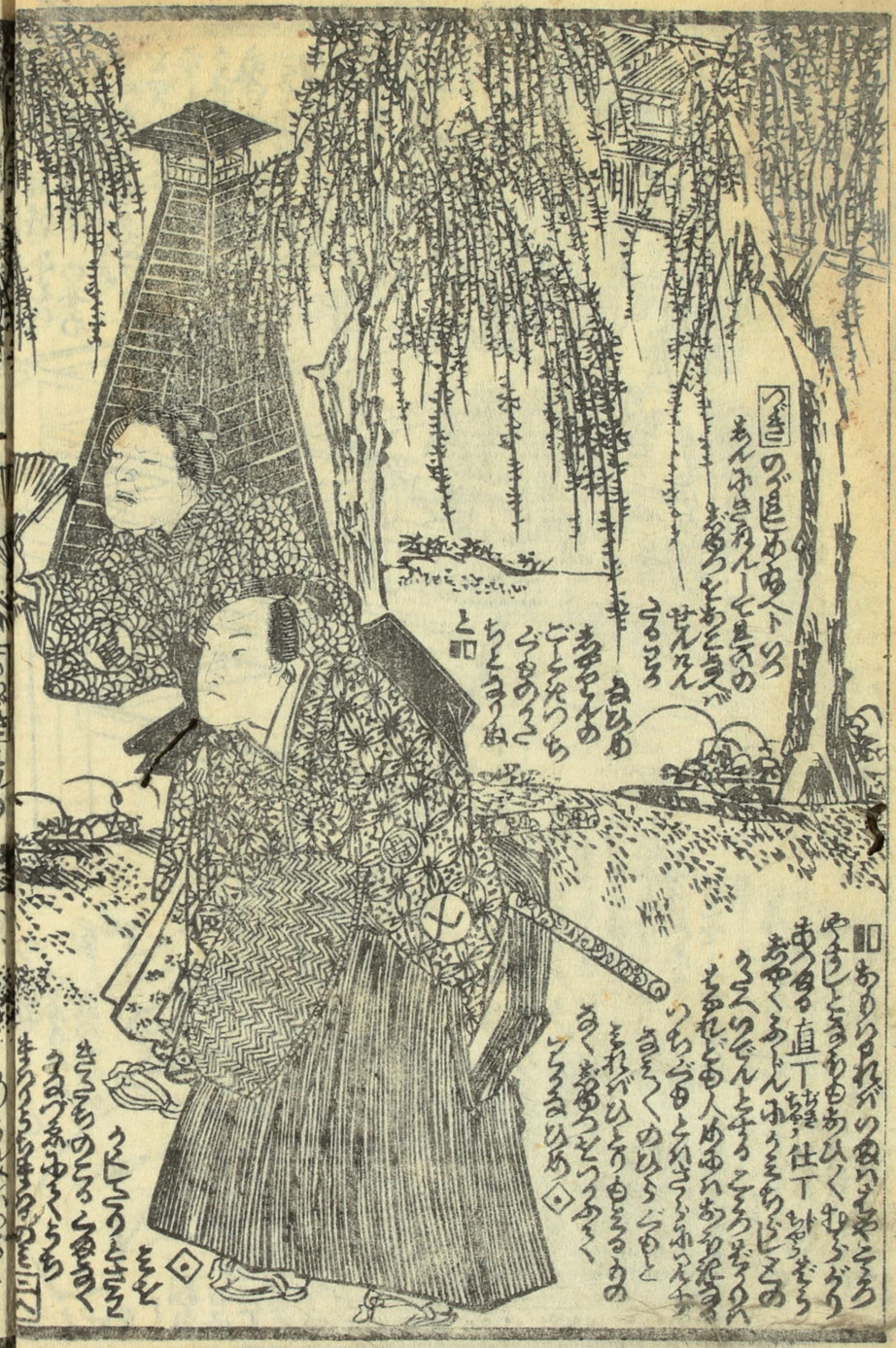
菊地家重宝
花形鏡
真寫圖

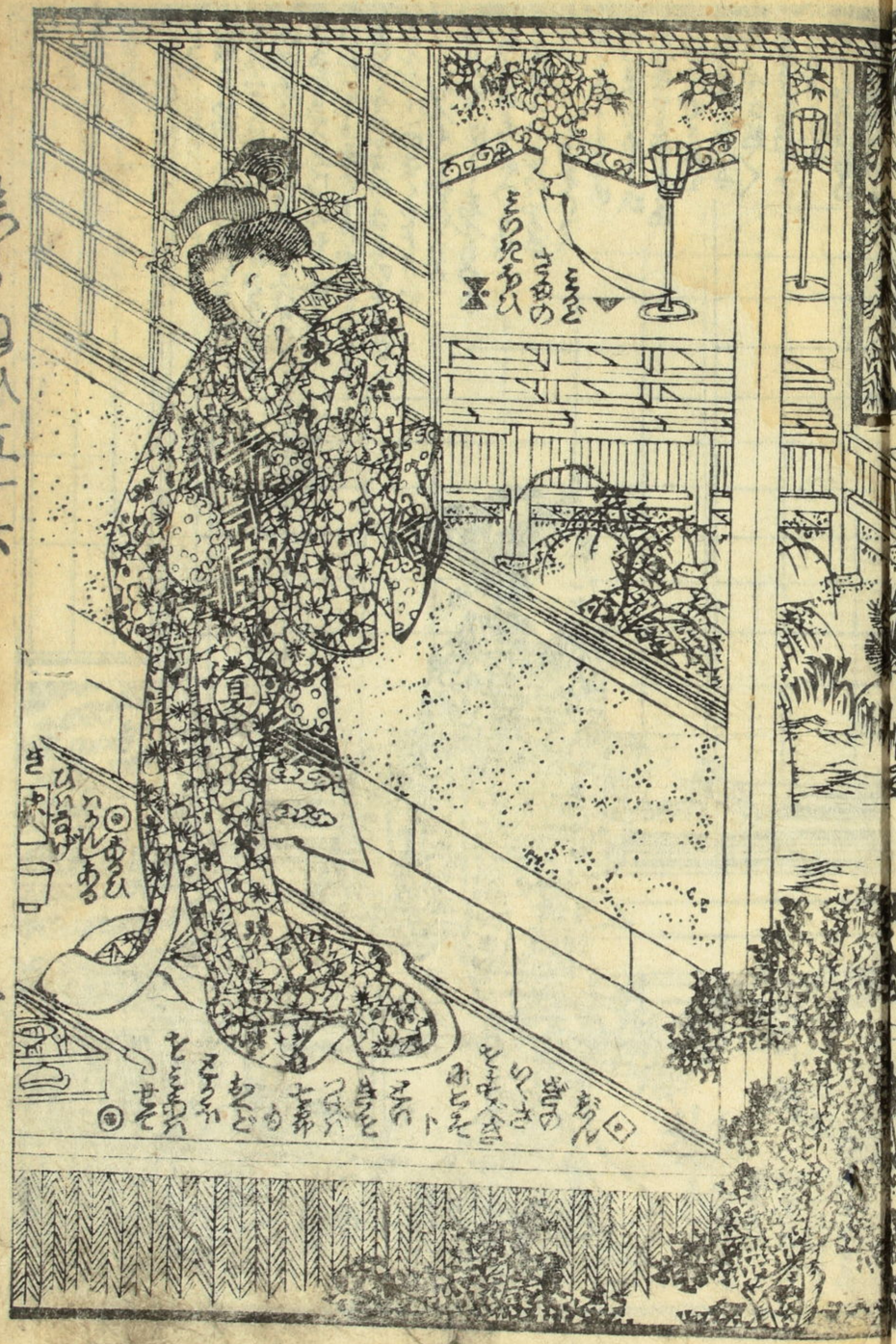
由来ハ
三十六員の
詳り
八花形の
画きハ
画匠の
洞色之
實の圓〜

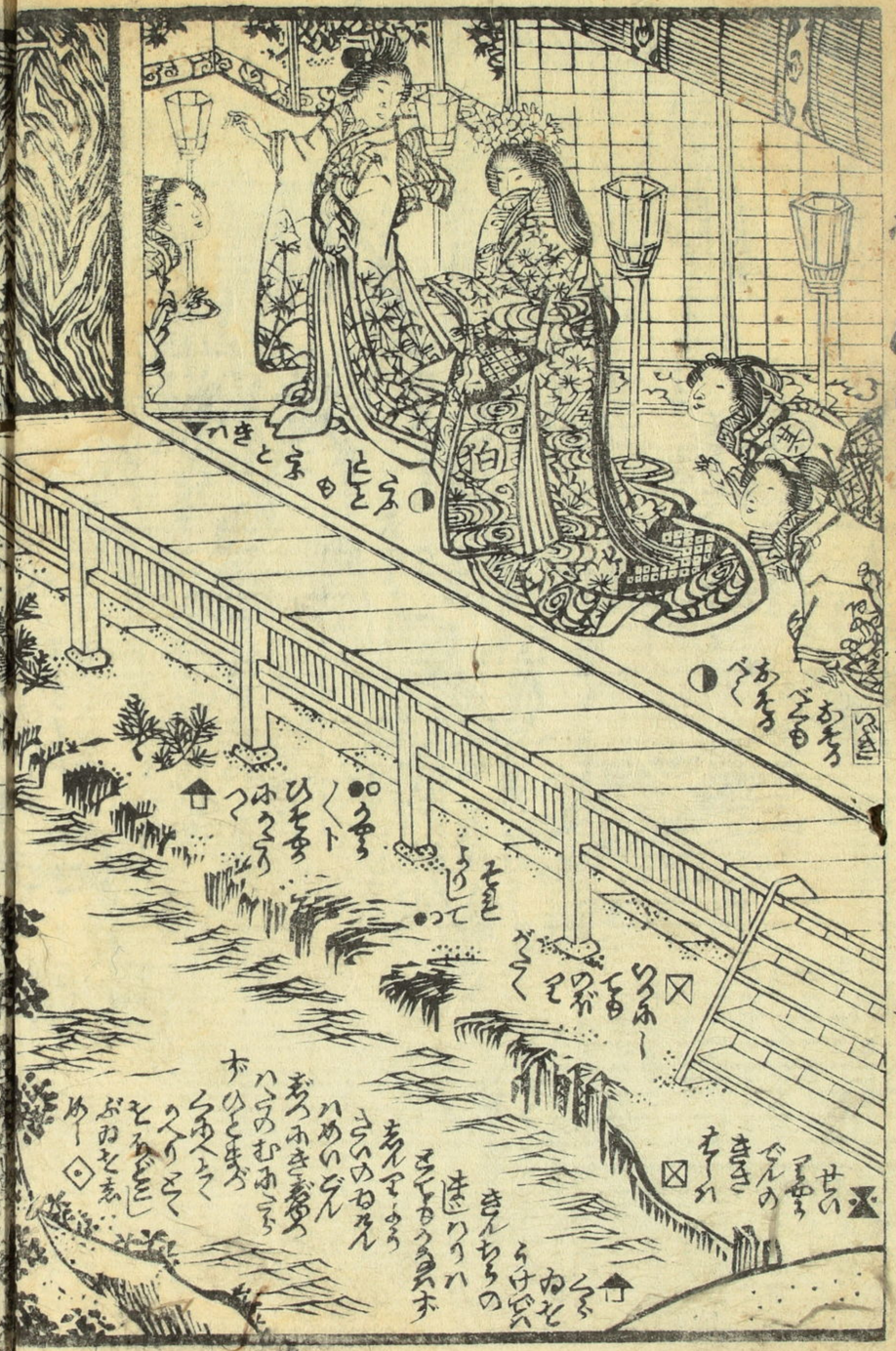


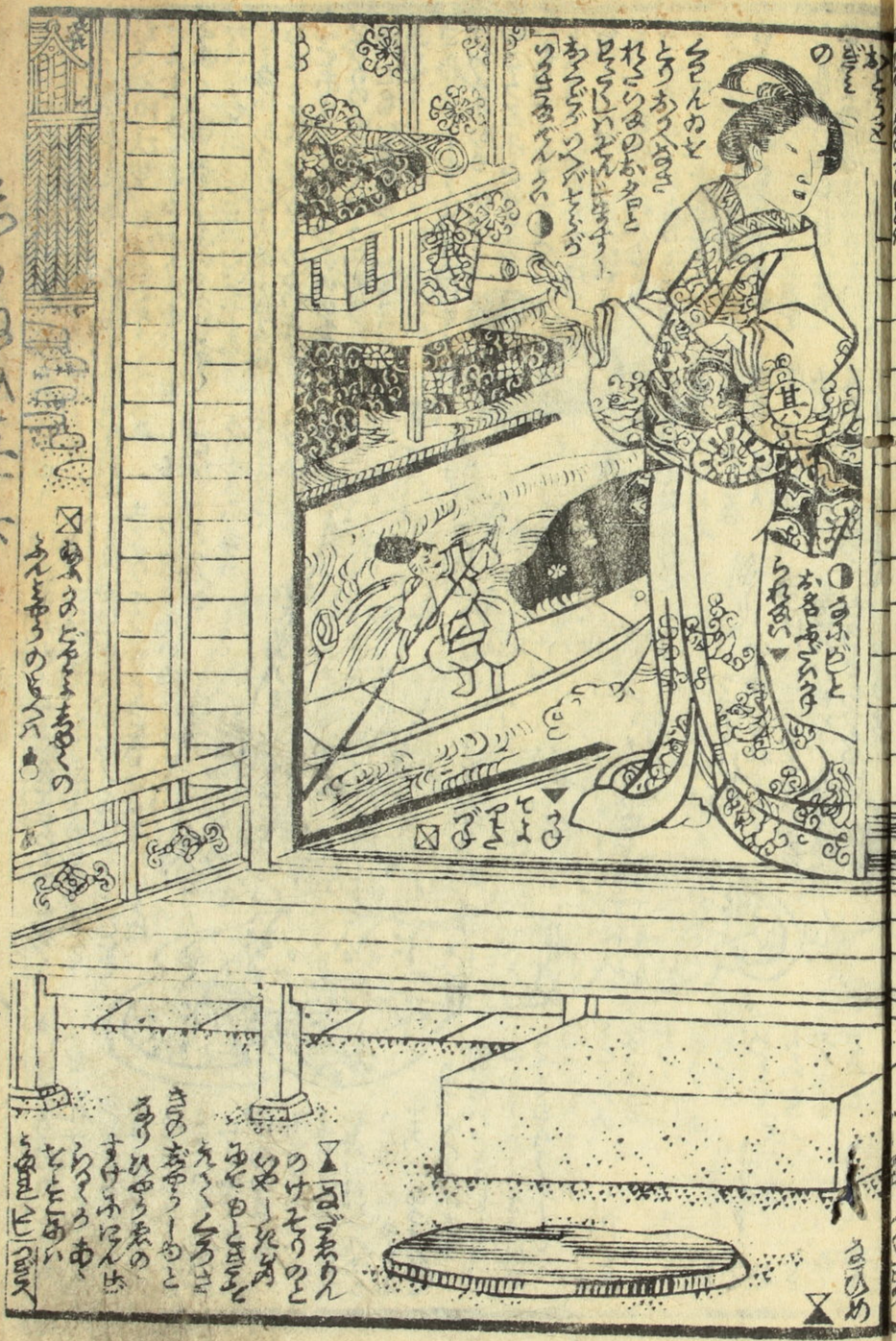


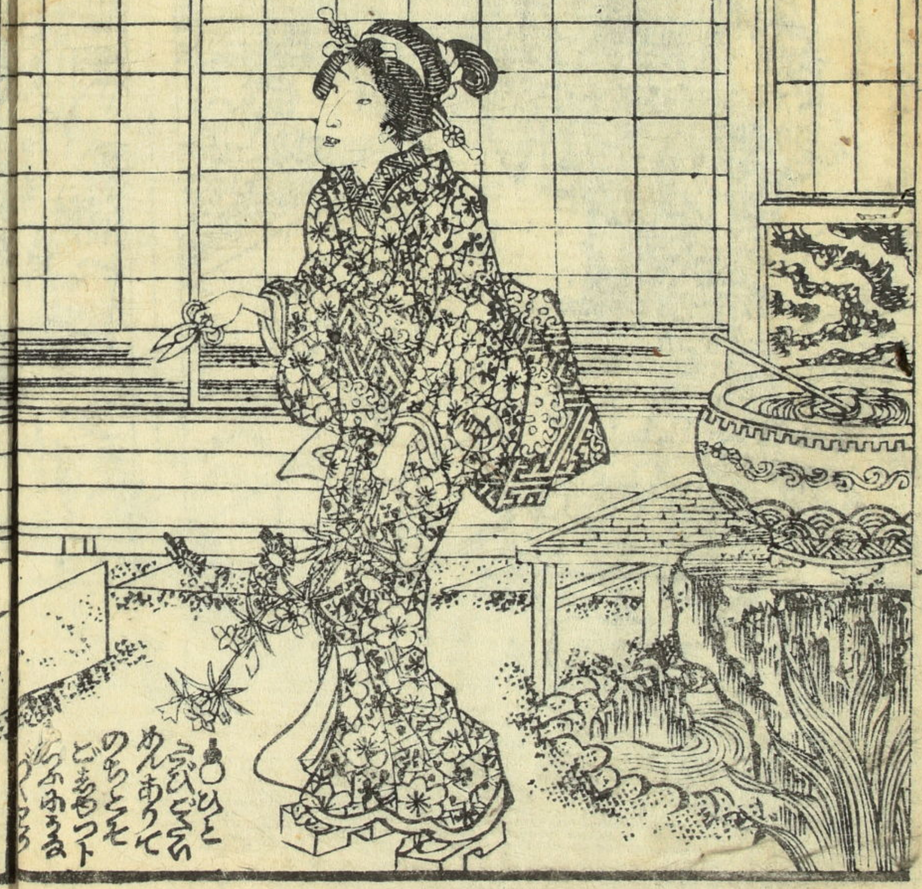
○妖ハ徳ハ克ずとハ
そも〳〵ふしぎもなきことぞかし
やくるもひろうあるむ
きらぶべきもあり
もゞ是人ハきらひこうぬきも
あざむきえぬハ
ひとつのとくあれバ
せずいまや至尊をハ廣大ぢの
そのうへ世の
一わうのぜんのごとくいあづかりまつるも
ふもあるべきことぞかし
そもこの人のふみよくてたしなみ
くてハ








其六



此画下の巻あり

作者 種彦

画工 芳幾

志ゝぬひ譚

五拾四編ヨリ柳亭種彦作

六十編マテ一恵齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ五編迄同

迄刪同

作画

假名讀八犬傳

三十一編ヨリ假名垣魯文録

三十五編マテ朝霞樓芳幾画

古今俳優似顔大全

故豊國翁筆

大錦白三番續

太平記英勇傳

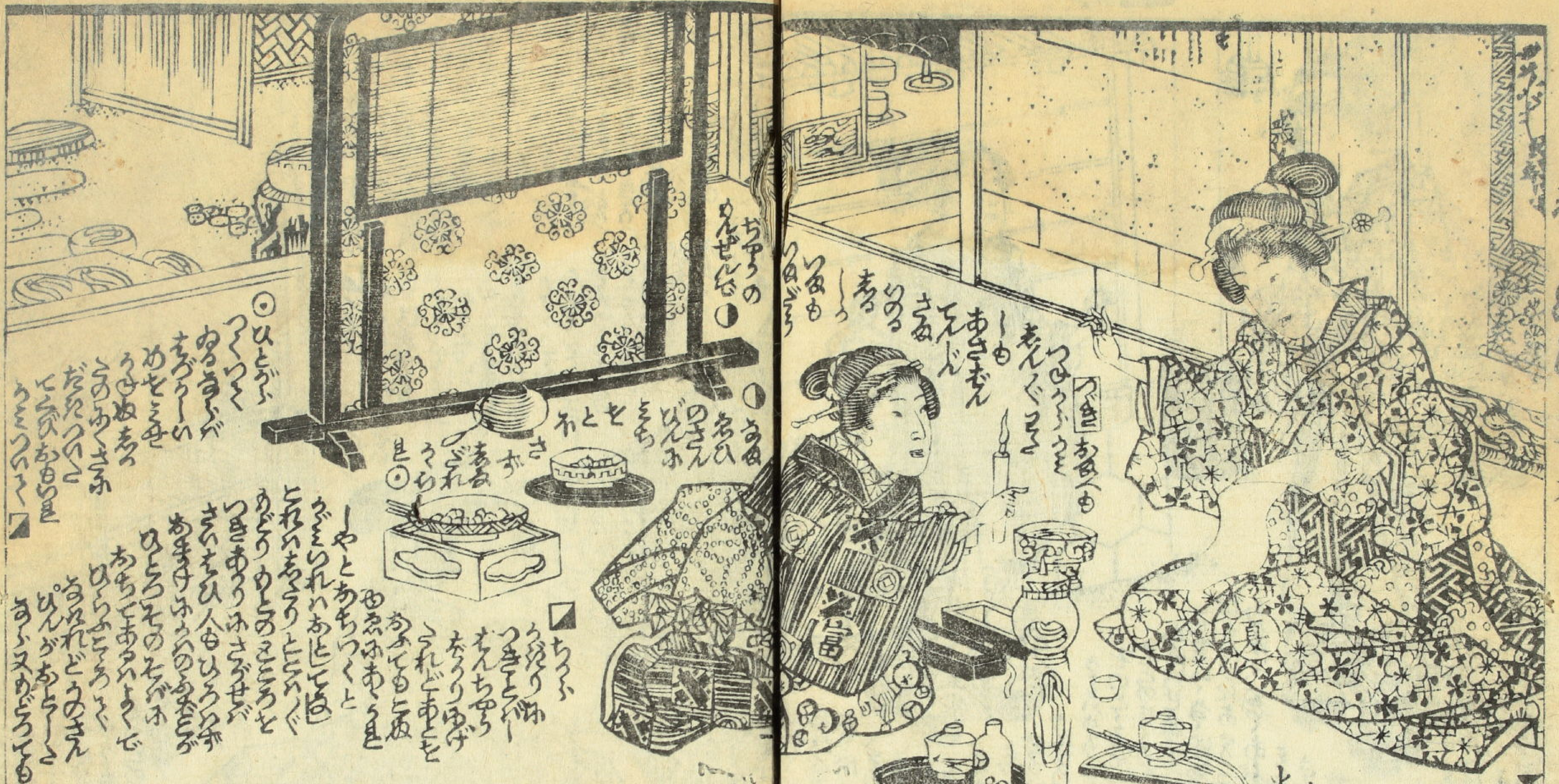
中錦山々亭有人記

百番續恵齋芳幾圖

五拾六編下

○かくてあるうの
ゆひくるいあるなる
のも師しまくてい
こちよりんみも
ある図さのつとるも
あんをらけ[illegible]
寺ドの慈舟[illegible]
さ女の[illegible]ゆるふ
あくふ[illegible]さりとても
ひろいまゆてまゆふれ
さぐあてさゆふれ
うさいきりてあくとそうれ
そのところでうさそりを
そのまくめちきうり
あとにいせぬゴトあひのあいひ
さぐりつきて[illegible]やあしやきの
ひとゆつひあうり「これいそきう
あゆ[illegible]へ「あてあぶゆいトうれ
[illegible]あせ「あうつ
さんでりどぎん
せぬう「あぬへい
やゆとゆのあせ
さん「あうつ
さんいたうあう
あゆのあゆまきゆ
ひれとうまてく
ねやんまときいこのゆ
そもをもいれずいゆどう

ぞまへ「まとー
きこのうりがでれ
五どうり[illegible]きぐ
ひとそーつて
「あやーれい
六どうりがいと
きいこゆ四どう
のてゆまちゆ
みんおや「ゆ
そいくと「それい
ちるせがいろる
あふゞさんいあい
うゞず六くどう
のけいどいたのと
さりゆ[illegible]きうや
「こんどいどうや
あまとさうて
ちるゆ日きーゆ
そんゞゆ「て
ゆもひいきの
きや「あんが
とせもたやく
あゆせてあてび
のちゃ[illegible]てさう
きゆでどちそう
せゆ且てうん
とちあうつさん
きうーゆんせ「つ[illegible]



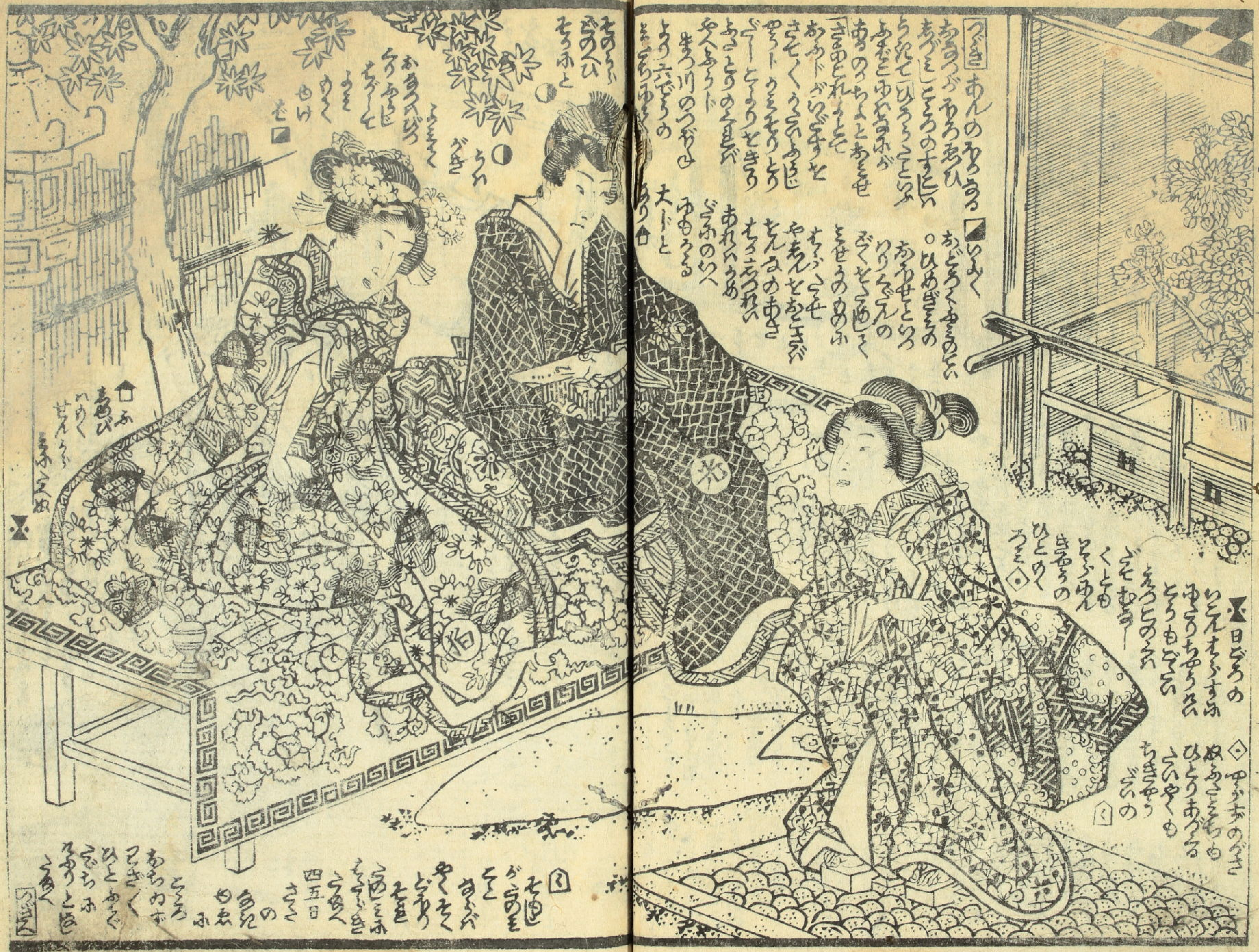
さて〳〵おのれ七兵衛
らせをくらふめぶれさ
うえをまらうと
どのとらりひとろふ
めつてきてうのな
せうろくめらうさ
わらやのおさせん
もまげ以ておのさを
ひろつてきてされども
火もとのさぎは
ところはせく
そでーつふ
つれあそり
そきこじさ
のもお夏で
まあらせ。

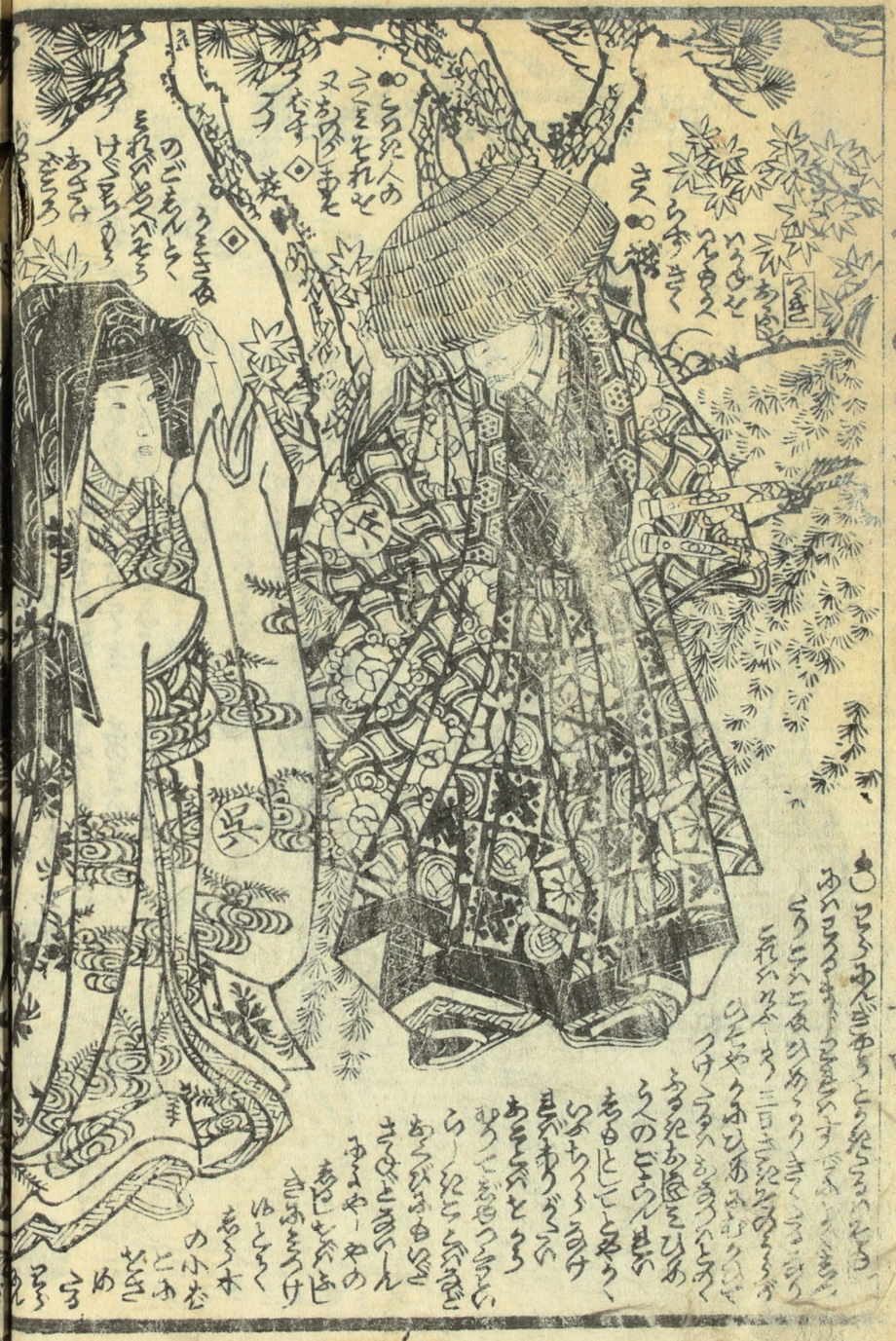
あの
まあうら
うの
ところは
まうさ
おきさけが
ゆうかは
さかめく
のこさずに
きれいれふ
見るどひとり
で以医者ふ
おむりとは
あらうが
つれあそて
やありと
ゆすきぶ
どころまき
ねどお夏への
うちむれも
きひそう
ひざてもそれ
ずんうふひぐふ
ひらふゆと
まろきそが
あまつい
せひなく
又めどる

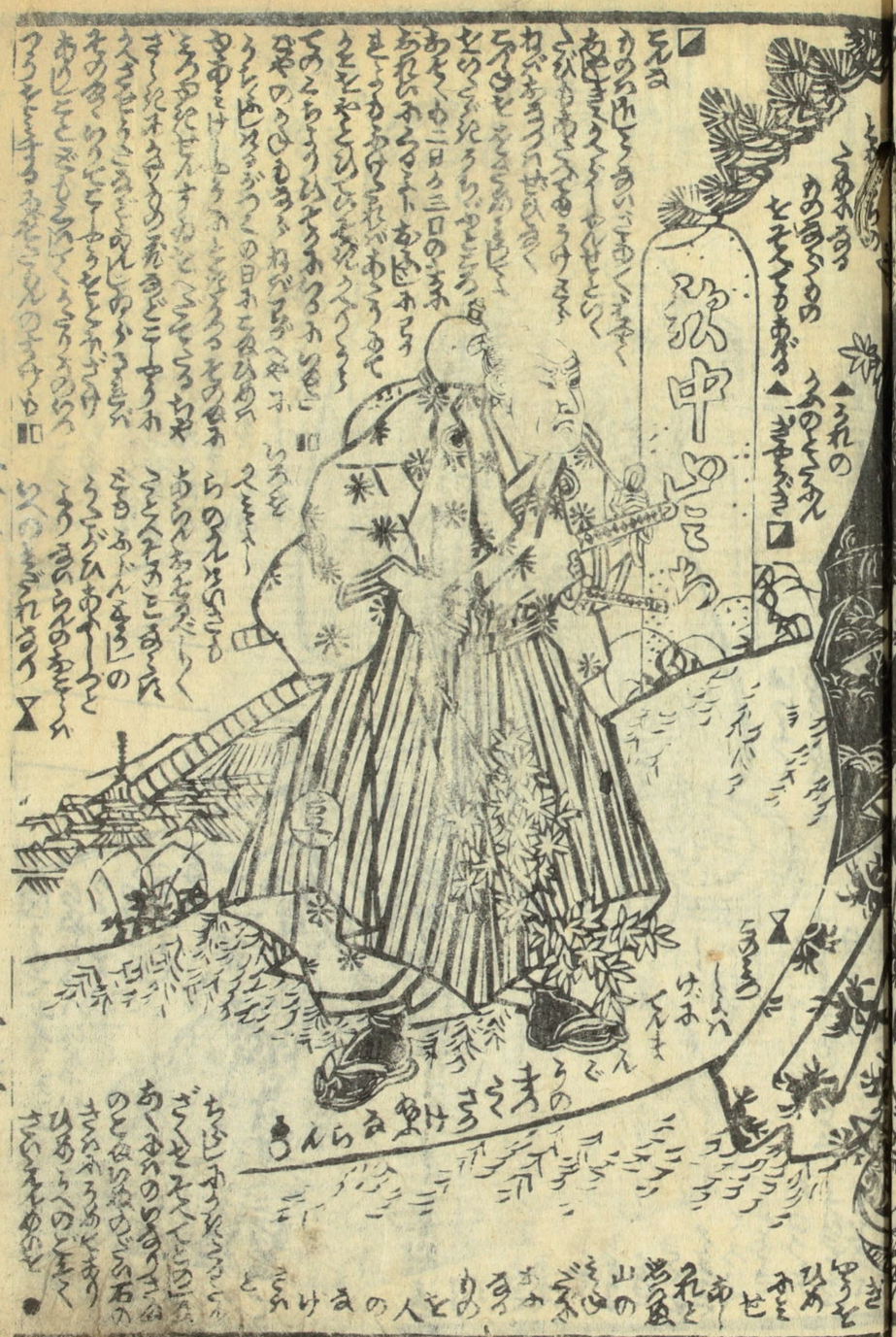
○のみ夏と
まぶとや
うつとまさ
のられてとまる
であらうとそれは
きまあげがお夏く
あせあのくまろ

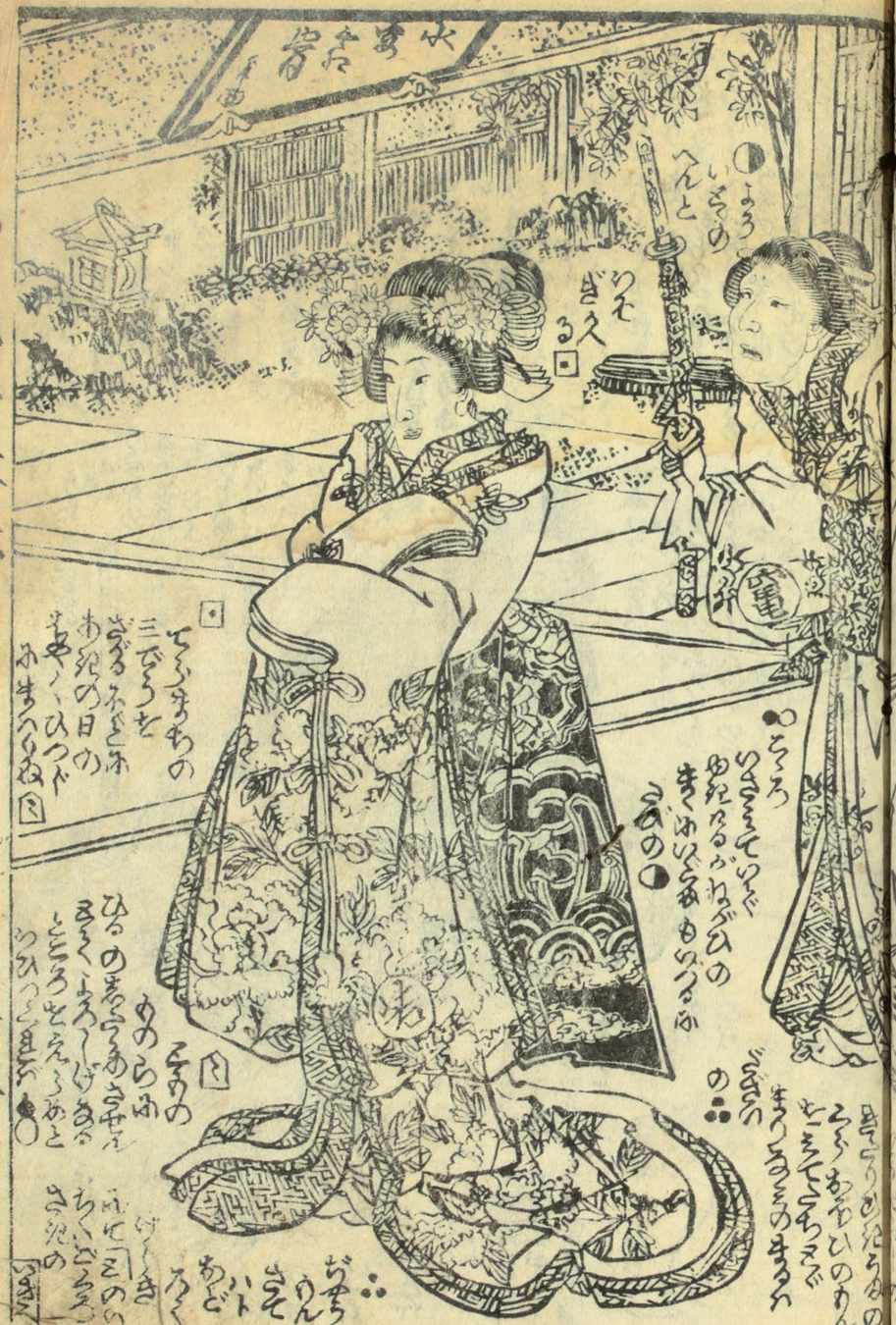
そもそんどん
さ夜のまつくて
どりやくらきとも
おびはさあえんざ
うえそり
お七はせ夜の
とつひらく
「みんとらうんす
うえそりを
ぶちもとと以
お夏への前ささう
めしやどさんの
ろの夏夜とはさ
かのぶもしらく
おや以とりとうけ
ど二とりおやうな
「みんのくさう〳〵
あの「それあらふ
ぶちふくみんの
さうのそばられ
まあふねども
そさてーものまの
さいまへのがま
てんじんさま〳〵
おれはものひとは
とうのおひるぐ
おうときそ
ひとく〳〵。

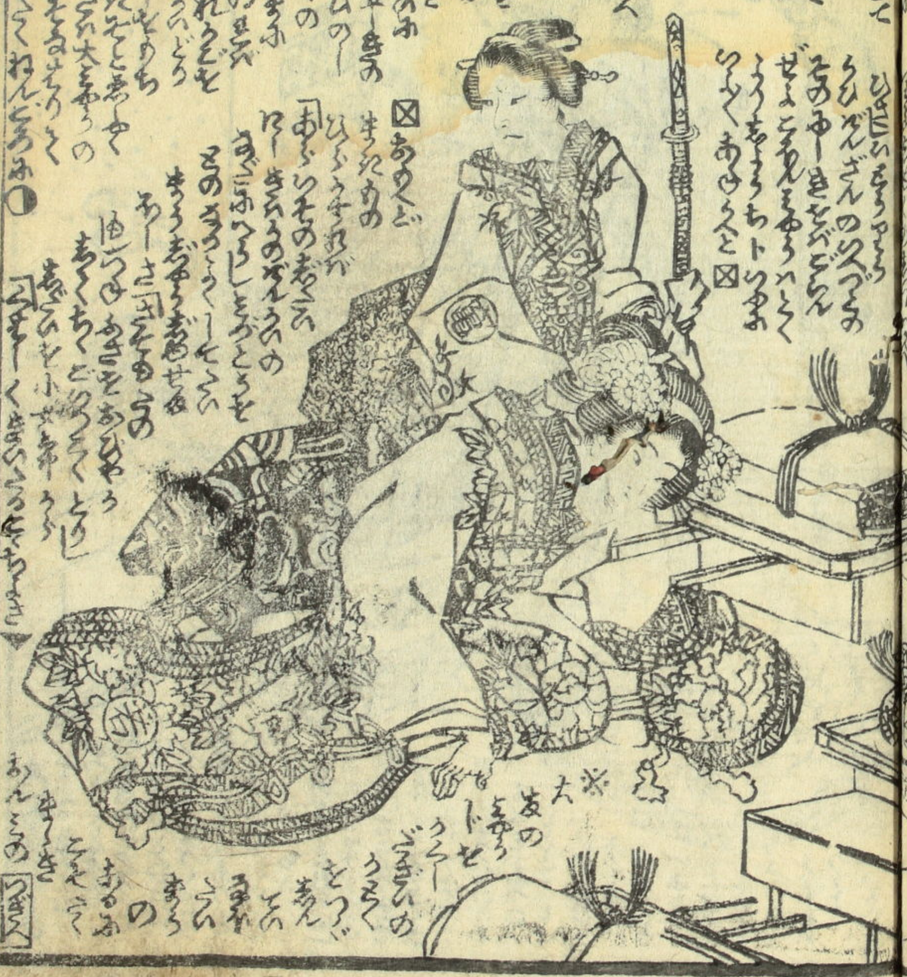
でんきんばうの
どりぬまへ
つうとれうて
と南んどうの
うきるまどの
かくこどり戸
おしあけ
さうみへいう
お七まあつ
もうさつき
とりつまう
きさせう
とつての
あつく人
まやいが
うりえ
いどらふ
とんぶ
くらづけは
まづいき
つえの二ツ
三ツいろ
ゆへいで
ねどもさ
ぢよぶな
すみの
とうま
へんの次へ


つゞき









名譽の義賊ハ 柿木金輔

名誉の孝女ハ 枝豆於市

浪輝黄金魄

三編讀切

瀬川如皐

山々亭有人
惠齋芳幾
梅素玄魚
松湖交來
假名垣魯文
可竹其水

合作

一對男の縁に因て戯作劇場を一様に竹林あらぬ七軒人が一回五葉を持きりの合作全備の三編冊

初編 初丁ゟ五丁ゟ迄 其水作同 六丁ゟ十丁ゟ迄 有人作同 十一丁ゟ五丁ゟ迄 交來作同 十六丁ゟ十丁尾迄 如皐作

二編 初丁ゟ五丁ゟ迄 魯文作同 六丁ゟ十丁ゟ迄 芳幾作同 十一丁ゟ十五丁ゟ迄 其水作同 十六丁ゟ廿一尾迄 有人

三編 初丁ゟ五丁ゟ迄 玄魚作同 六丁ゟ十丁ゟ迄 如皐同 十一丁ゟ十五丁ゟ迄 魯文同 十六丁ゟ廿丁大尾迄 其水如斯に持場越定め一丑に筆力をほしゝ浮當藏板のあらぬ同様御高評を希ふ

地本草紙問屋

江戸深川佐賀町

廣岡屋幸助梓

白怒飛物語

しらぬひ
ものこうり
五十七人世々
世のまき
たるみ
さく
よしいくさ
あり
のまち
おもん

文蔵 [illegible]

葉壽堂
あづさ

水に二なし冰る則ハ平こほて押に堅
波うつ則ハ逆怒當るに痛し忠孝も二はし太平の
世の忠臣と富貴の家乃孝子とハ克盡せども平こうり
然らして最難し君に代りて戰死し不倶戴天の仇を復せハ磯うつ
波の奇態を見せ胸を冷して痛むべし此白縫の原傳に夜須河某の
幼少兄弟父讐鷲摑權太と云暴老漢を討餘譚あり板元これを書
加へていぶとの好あれば志邨が酒筒感得の話ハ十七腹稿成られど澳津
島の波高きに似ず其趣ハ平なりや次川の水ハ堰まて哽ぶ悲しい
件少からねば久しく出さぬ愁歎場を且前はて碧巖和尚の落草の
楔子とハ養老孝子ハ六十編の外に延して竜川が娵婦の因とせんさて
安川を岡村に托せるハ巻中の人物のかぎり立消あらせしとなりけり

慶應四辰季春

柳亭種彦記

本領安堵
彤管嬢

鱷塚豻太夫

◇左のひとくだりハ五十六ぺんの
よこづなゆゑあるべきことながら
きゅうくつさのくるしさのこころく
さのりのでるたんのすけこの
ちゃをあをそうあらせるもあを
あらく
そろ
さうん
とま

▼うるべのうんそうちゃう
そも〳〵紙鳶ハゆにるさるる
ものゝそもそもひもてーん
文道ぢをまもりぬよ
天満ぢこのおうりんきも
ゆにけるくこの
ろこびのこそ〳〵ろ

◇ゆーれのてんまんの
ちゃとうみまうでゝこの
うへゆもちゃけら
あふとをまらぐさうの
ろうりぐにと代ありんこの
あいーひとすくあれをうあ
く〳〵ろ
あと
よう
きこ
つろう
そつ
ゆれく
まぐ

▼こハ
さうれゐも
のひぐらく
その人のくち
よりもうこうせ
ゆくきもあはて
ひのまうつこうれ

●そさこそありの
○うるべこゆいこそは
らのうんそのゆ
あつべきそあはゞ
ひろひーころあよ
ろりこれもとこうく
ひとゆものいゆく
あのこゆくず
そのろうと
ふ▼

ざーれゆそ
のゆせまべくとゆゆやすくびゆも
しべゆゆとやのおうべゆも
ろのつひそゆものとこせ
ろこびを表へせてと
六角ざうろうよび
手るふをを
人ゆうのをおき

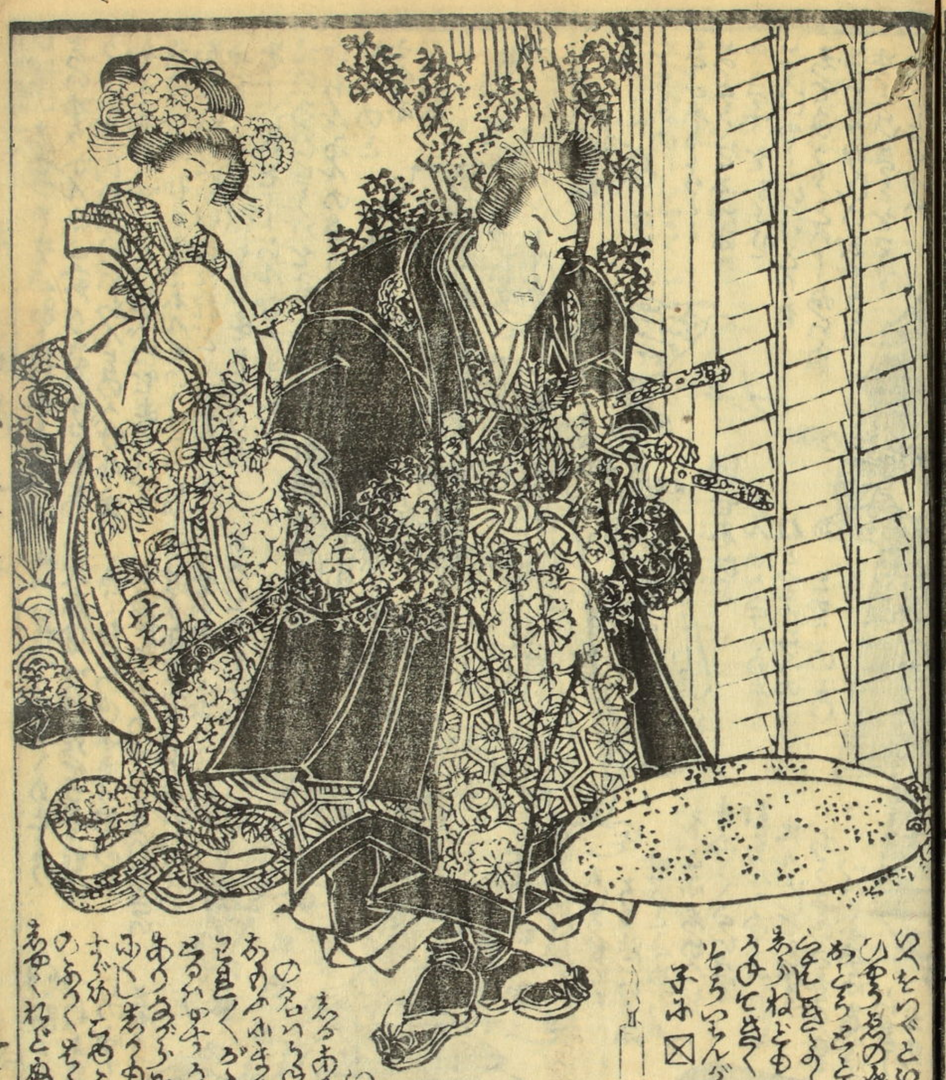
そもうくふんとうりんの奴
ちゃとうみまうでゝこの
うへゆもちゃけら
あふとをまらぐさうの
ろうりぐにと代ありんこの
あいーひとすくあれをうあ
く〳〵ろ
あと
よう
きこ
つろう
そつ
ゆれく
まぐ

おくあゆは
そせきこれが
ちくふこび
こせこゆりゆ
あゆつう
うこべ
ゆそ
うこを

ありぞゆー
まべあをろり
うこうきろせ
もーうふを
のゆふいる
ぎゆろうくゆ
あゆうくゆそ
くこゆをきうすこん
ありゆゆそちい
てんまんぐうの
つろうーゆうと
ひとうゆとー

つぎへ

○此画組
本文とは
齟齬あり
末にある
べきをひとつ
あけてもちゐ
ふう世られば
画工の怠にあらで



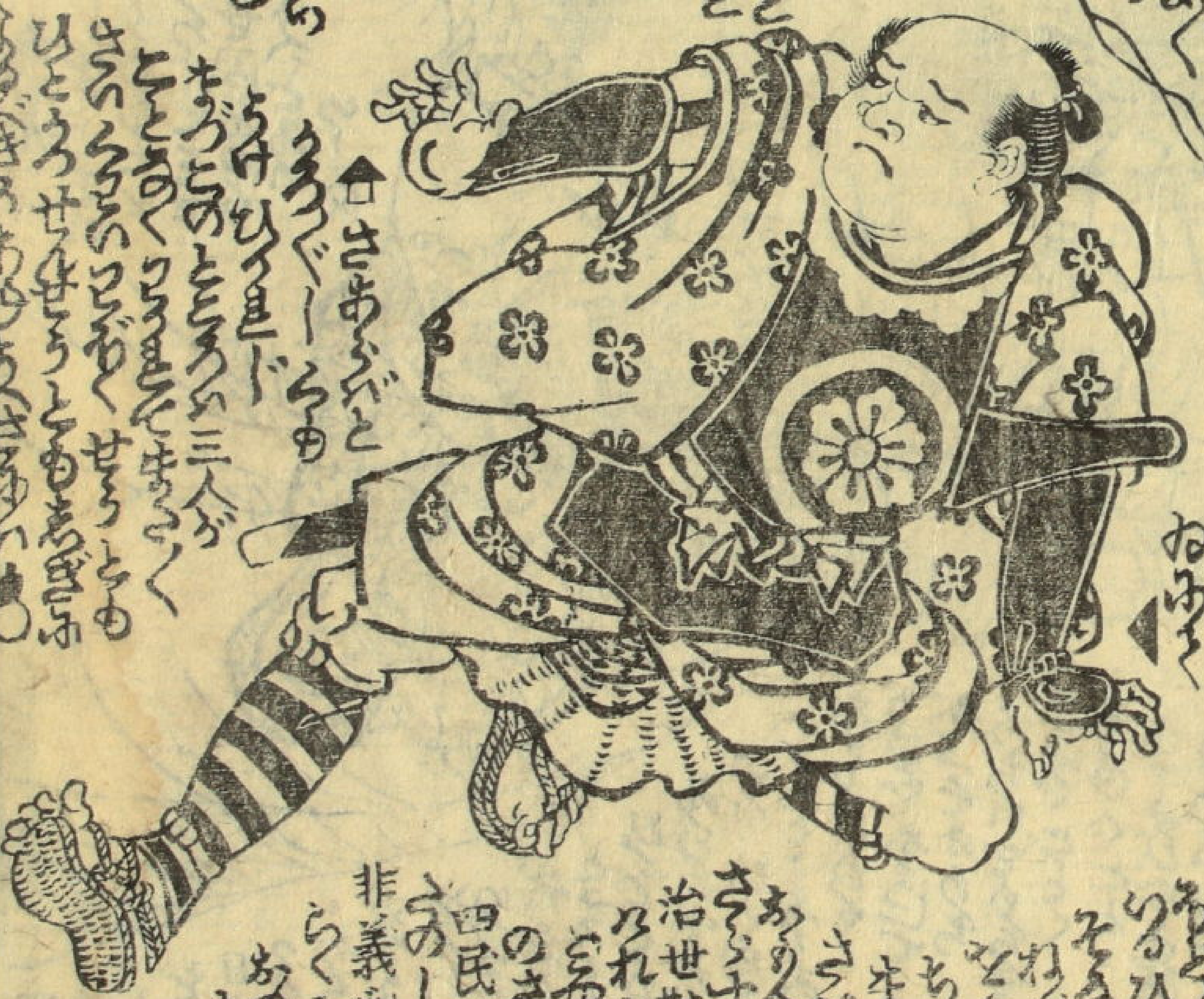
つぎ　さてもそのゆく[illegible]

京都[illegible]

[illegible]

死場[illegible]

[illegible]



[illegible]

四民[illegible]

非義[illegible]

[illegible]天下[illegible]

[illegible]

柳亭種彦作

恵齋芳幾画

志ゝぬひ譚

五拾四編ヨリ柳亭種彦作

六十編マテ一恵齋芳幾画

兩面織花田物語

初編ヨリ同

五編迄同

作画

假名讀八犬傳

二十一編ヨリ假名垣魯文録

三十五編マテ朝霞樓芳幾画

古今俳優似顔大全

故豊國翁筆

大錦百三番續

太平記英勇傳

中錦山々亭有人記

百番續恵齋芳幾画

柳亭種彦作
朝霞樓
芳幾画
戊辰春
廣岡文庫
五十七編下

白縫譚

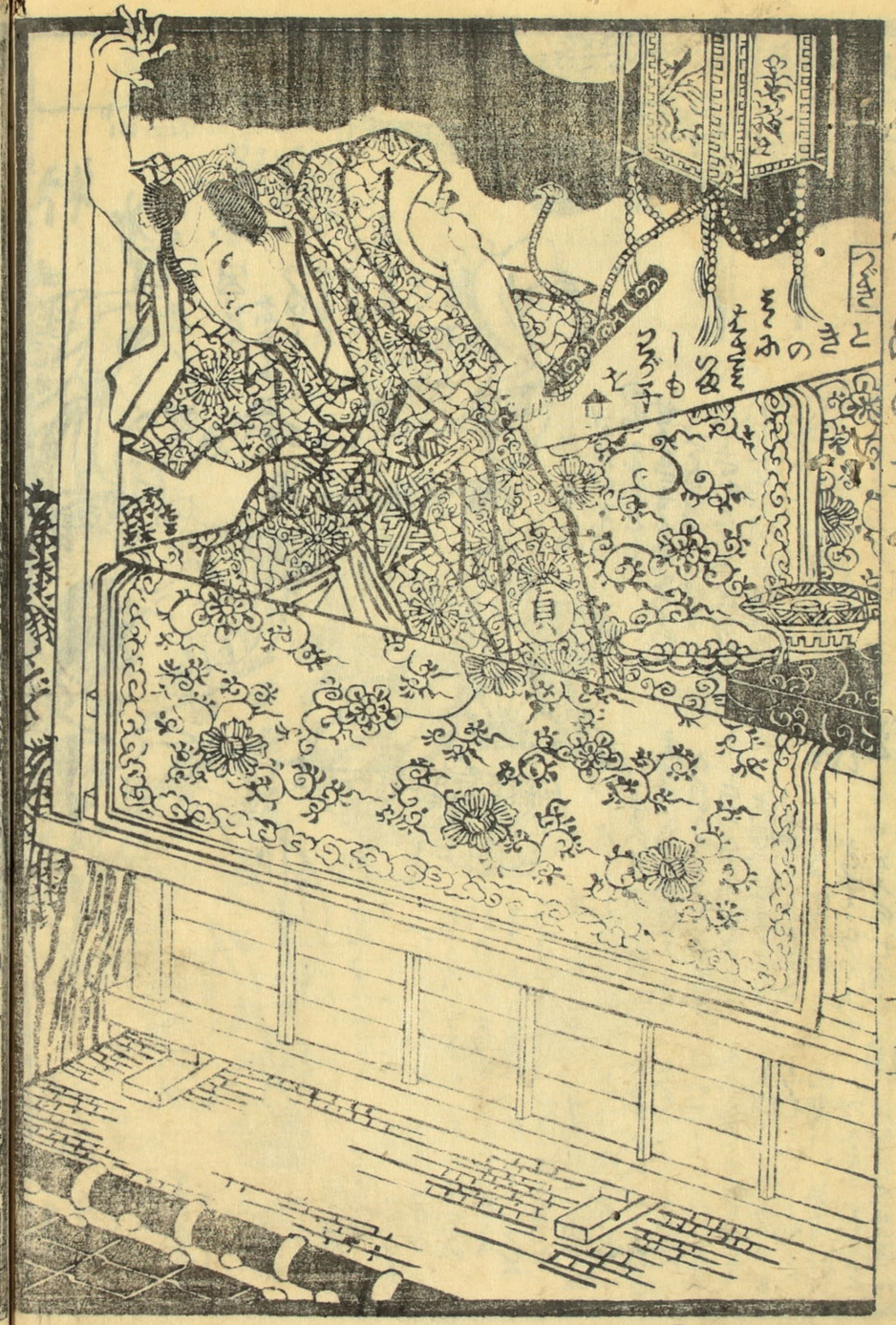
五拾七編

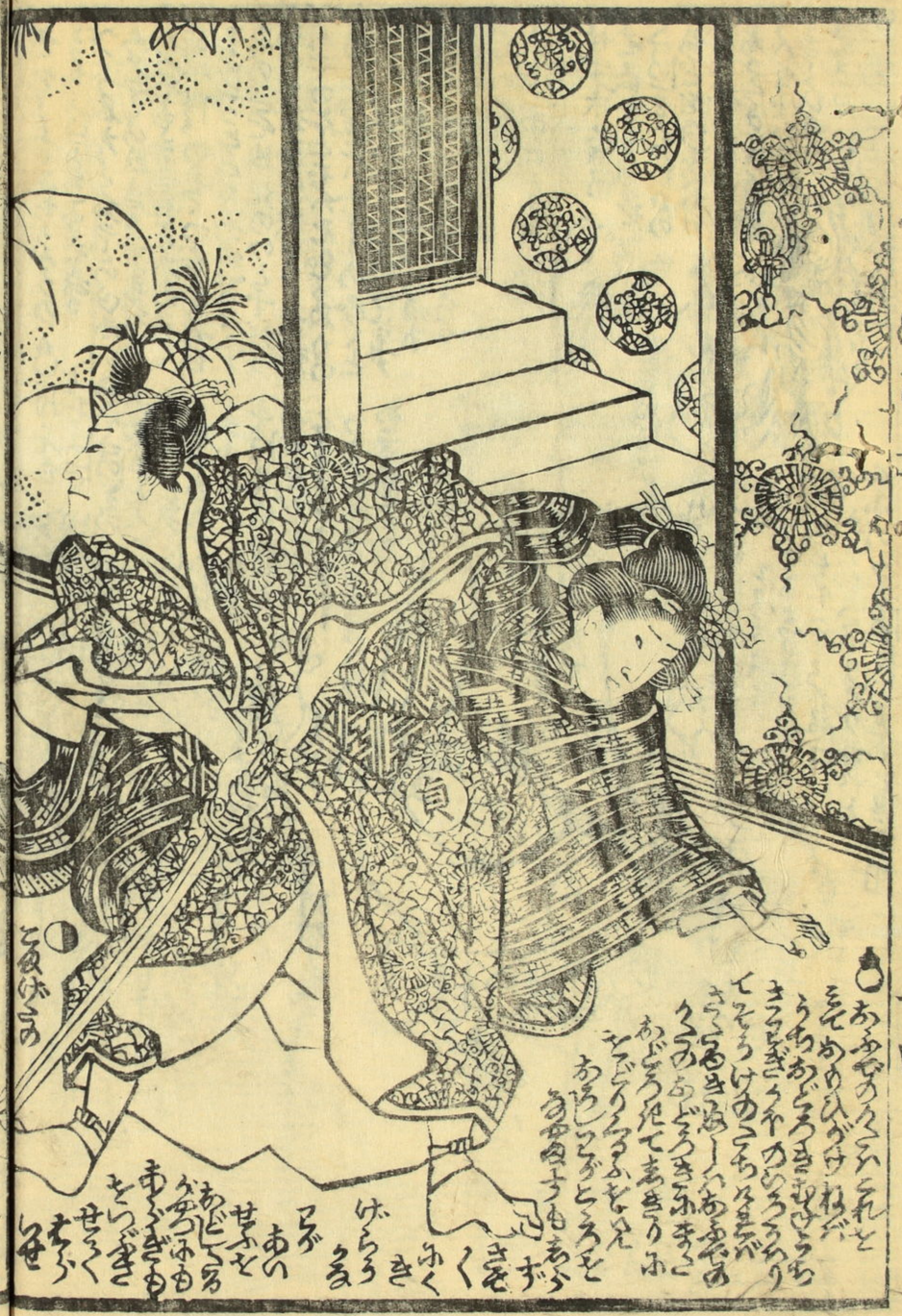
下之巻

種彦作芳幾画

上のつゞき「ヲヽまえの
もくろみいかゞ」山妻「ハイ
こゝろぶんどあや子の
のぞみをうちくみたのび
りゝ小女郎をせうぐ」
士民「ハヽんそれをきゝてハ
ゐりんこくりきこくこく
うちこそくんとうめく
「ヲヽはてもちくうう
ひそうふこそー
らふひきやくト
このやをそろはへ
もろゐりん
「さのさひやーそ
あゝもまゐりつたけき
京もちやくとつくひの
とこべ「これ子ざわど
やふこうきやひー
吉ときとんあひとの
さのうちへひやく
きこのト ゐらん
こんにのこことゆく
ゐりうさのせん
ゐのうをあこゐひーふ
そのゐひしゐうりいふ
そそうるやゐうあひこうゐとこと
「のちトゐあとるやゐうけのうまひ」

「ヲヽまえの
もくろみいかゞ」山妻「ハイ
こゝろぶんどあや子の
のぞみをうちくみたのび
りゝ小女郎をせうぐ」
士民「ハヽんそれをきゝてハ
ゐりんこくりきこくこく
うちこそくんとうめく
「ヲヽはてもちくうう
ひそうふこそー
らふひきやくト
このやをそろはへ
もろゐりん
「さのさひやーそ
あゝもまゐりつたけき
京もちやくとつくひの
とこべ「これ子ざわど
やふこうきやひー
吉ときとんあひとの
さのうちへひやく
きこのト ゐらん
こんにのこことゆく
ゐりうさのせん
ゐのうをあこゐひーふ
そのゐひしゐうりいふ
そそうるやゐうあひこうゐとこと
「のちトゐあとるやゐうけのうまひ」





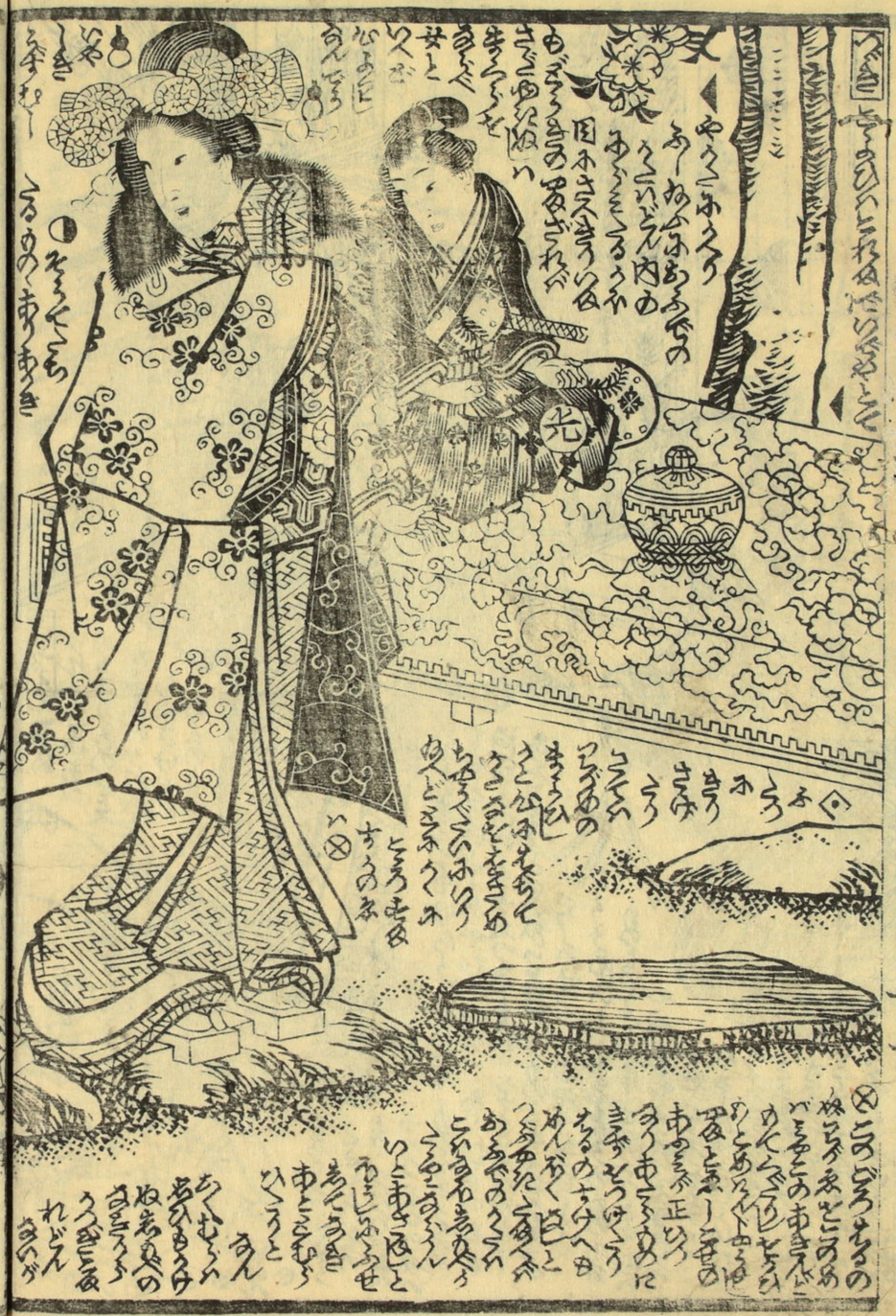
三のつゞき

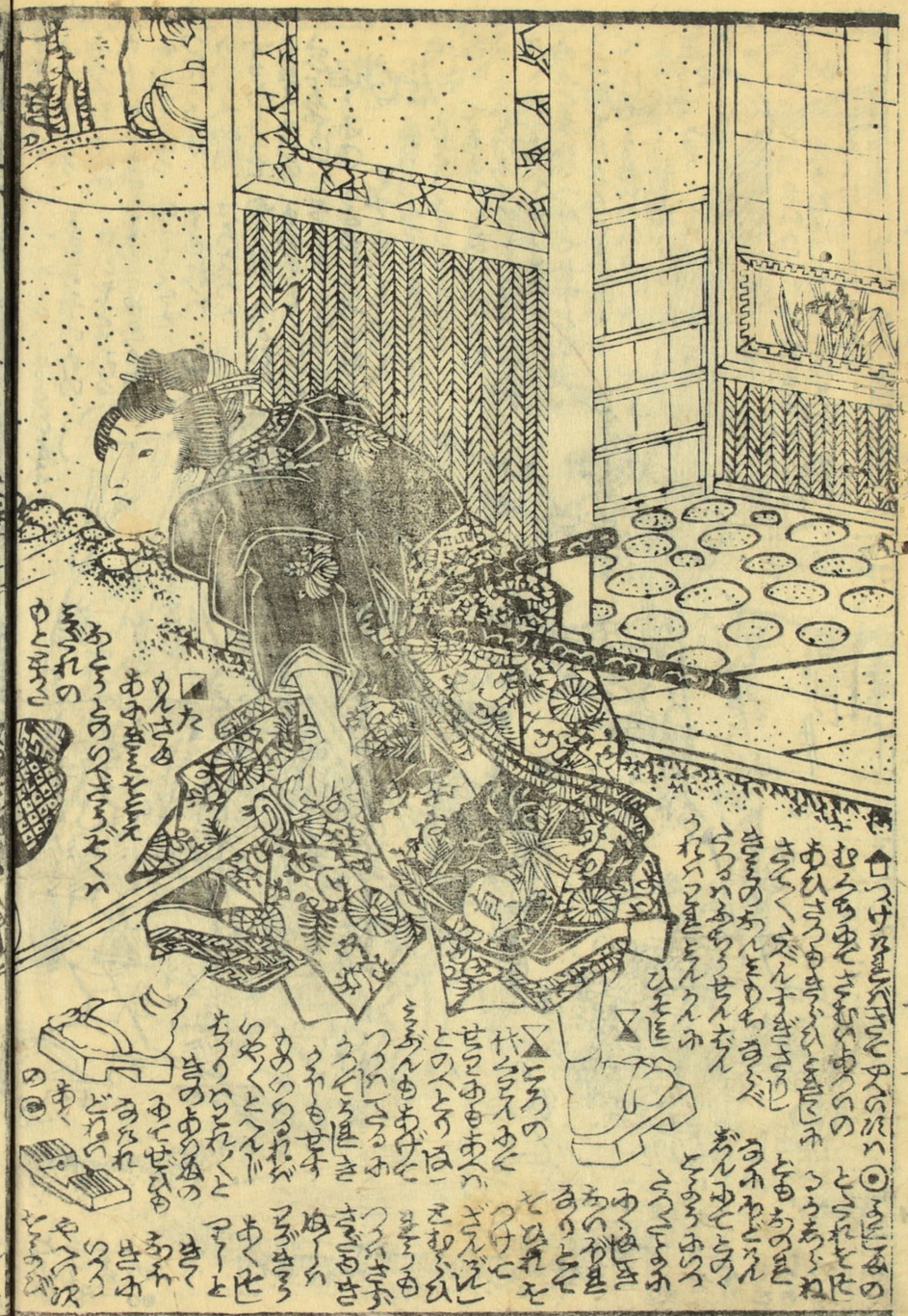
巨勢相覧者

四の巻へ

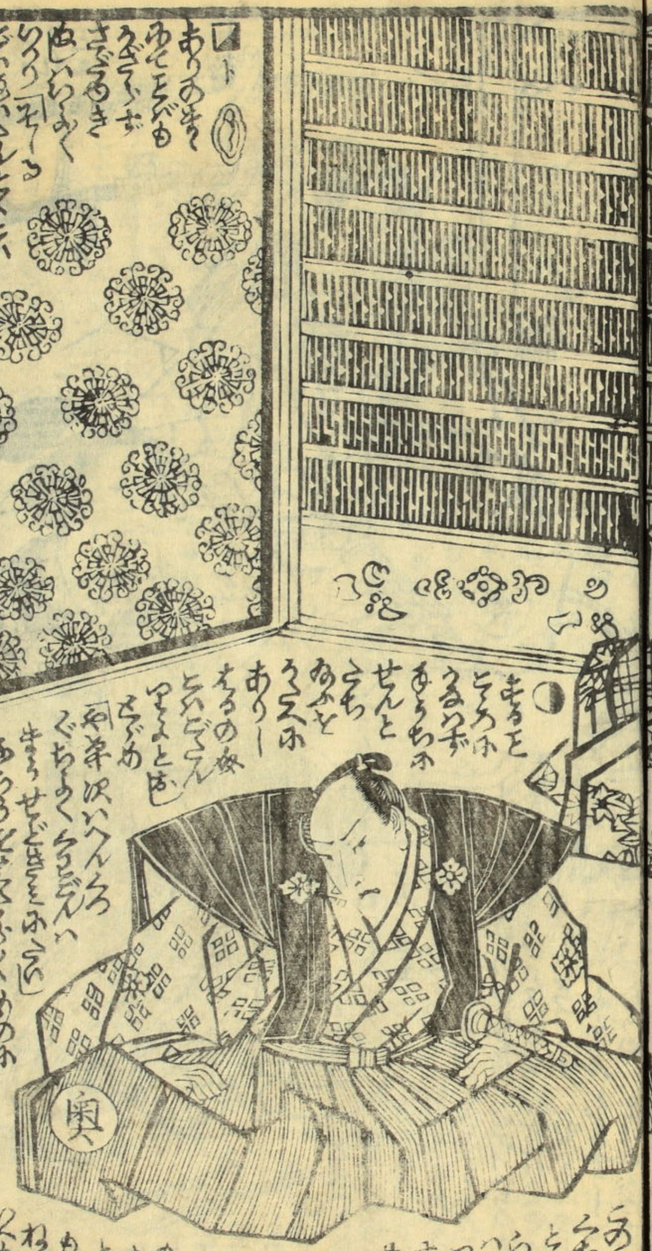
三のつゞき

四の巻へ





春
川


奥

つぎ
おとふする
のうくこびも
さのそくすれど
用ゞおされバ人のとおもそまゞがくそひねづひしのー
そろ子どもの
とゞまるも
そもつさすそろくこのやう
うのごらごまあ
これもやりのねみ
あさらいせードゞ
とれいおろ正しき

おれべのつくろひ
あるつ
あくまあのそそのさむさおさつけ
きのふ
あありせ
ありくこ
ありがとう
おもやのやみ
ありちいのつものやうゆつくみバ
人がるひきせうえのぐれ
ありれどもトのくれおやい
あるびくくそらいつこものくいぐ
あんとせうのでこそあれそち
ちがせんドレこそびんあつせ
いでごらうみ
おもんもきみてひと
そちるくふ
ありふ
おぶくう。
おもんきみてひと
そちるくふ
ありふ
おぶくう。
さうされがと
のうくうちさへ
さとのあふこ
うでやもうくく
ーとくへく
ふうりか子も
とてもまぐ子そ
られぬせざうり
ひがるところい
まくうれべろ
るさうとせとと
の子いをとこふつみ
うのさぐあやと
らふもまみぬあ
ぐ子どもみも
りそぐきて
小あやうをつけく
ものこ白
さん
そうこも
ありふ
おぶくう。
きうりを
きうちさへ
さうされがと
のうくうちさへ
さとのあふこ
うでやもうくく
ーとくへく
ふうりか子も
とてもまぐ子そ
られぬせざうり
ひがるところい
まくうれべろ
るさうとせとと
の子いをとこふつみ
うのさぐあやと
らふもまみぬあ
ぐ子どもみも
りそぐきて
小あやうをつけく
ものこ白
さん
そうこも
ありふ
おぶくう。
おもんもきみてひと
そちるくふ
ありふ
おぶくう。
あこのひい
ら
てもるふぬ
が
ひ

名誉の義賊ハ楠木金輔
名誉の孝女ハ杜...

狼糧黄金鯱

三編読切

朝霞楼芳幾画

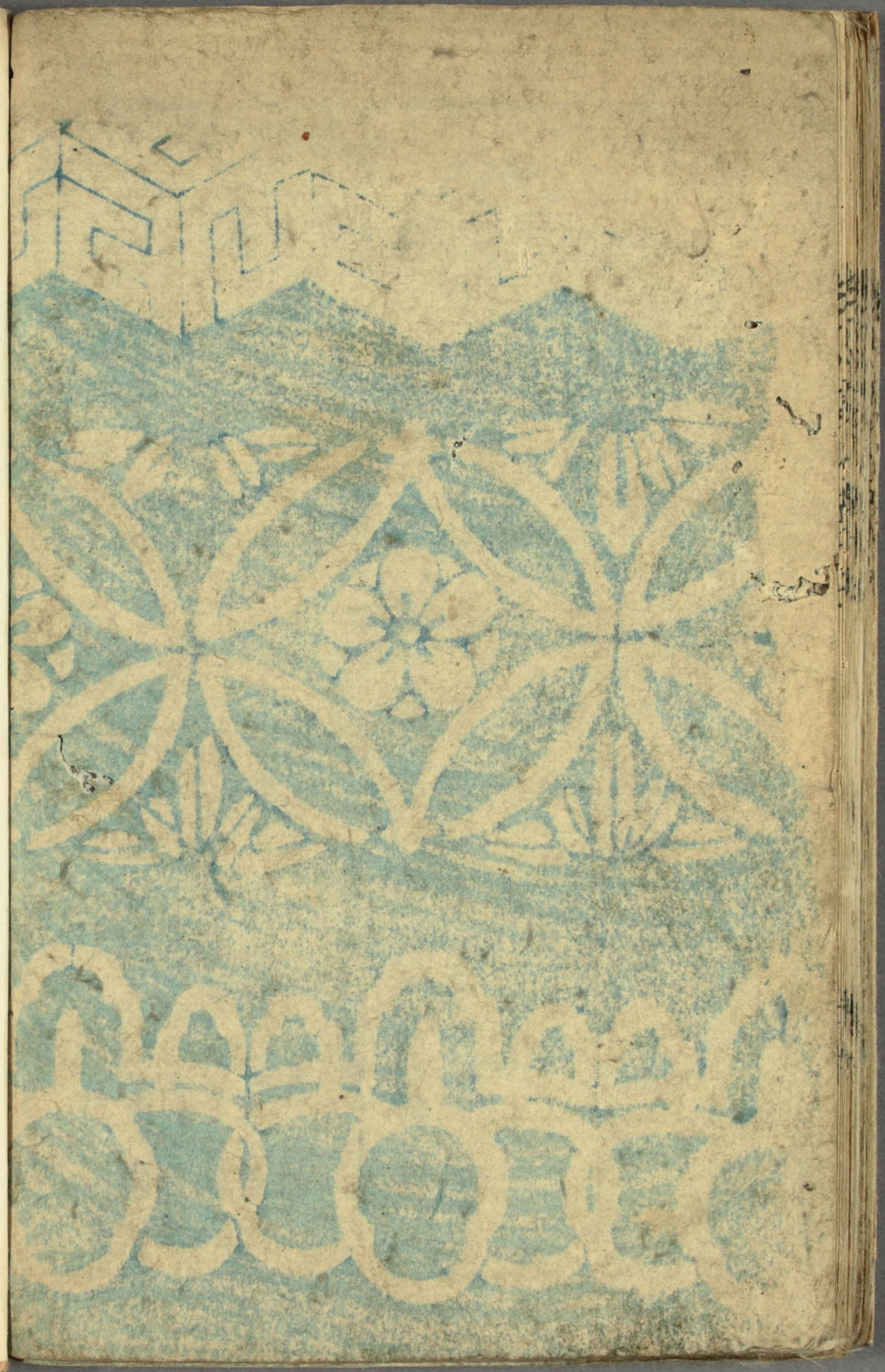
瀬川如皐
山々亭有人
恵齋芳幾
梅素玄魚
松湖交来
假名垣魯文
河竹其水
合作

一對男ハ縁ニ因て戯作劇場を二様に竹林あらぬ七軒人が一回五葉を持きりの合作全備の三編冊

[初編] 魯文作 同 其水作 同 有人作 同 交来作

同 如皐作 [二編] 魯文作 同 芳幾作 同 其水同 有人

[三編] 玄魚作 同 如皐同 魯文同 其水 如斯に持場抜定め豆本筆を尽くし當藏板のあらぬ同様御高評を希ふ

地本草紙問屋

江戸深川佐賀町 廣岡屋幸助梓